

「国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学法学部 2 年 （長谷川諒）

①学習成果（今回の派遣に参加する前とした後とで、留学、大学での学習、国際理解への意欲に関して、自分にどのような変化が起きたか、今回の派遣に参加して、次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったかなど）

授業は主に中国語を鍛える少人数のクラスで行われた。初めの1週間はとにかく中国語の会話についていくのが精いっぱい、自分の語彙力のなさを実感した。自分が仮に読み書きできたとしても、それが聞いて理解できなければそれは自由自在に使いこなせるとは言えないということを実感した。

3週間台湾で過ごしてみて、文化の違いを大いに実感した。例えば、たいていの日本の家庭では、必ずと言ってよいほど家庭で食事をとることが多いが、台湾では外食文化が根付いており、朝、昼、夜すべて外食ということも珍しくない、といった文化の差異である。また、日本の影響を強く受けているということもわかった。歩いていてもところどころに日本のものがところどころに売ってあるし、日本語が喋れる人もそこそこいるようだ。台湾のディープな部分の一端を垣間見ることで、普段体験できないようなことを経験できたのはよかった。

②海外での経験

見るものすべてがやはり新鮮で、日本との文化の違いを非常に考えさせられた。驚くほど地下鉄の値段が安い一方で、日本と値段がほとんど変わらないものも存在する。食べるものは辛いものや甘いものなど、日本人の口に合うものが多くて、食事に困るということはない。今回は台湾での海外経験で日本と共通することが多かったが、3週間海外で過ごすことで、3回生時や4回生時に長期留学するスタート地点になった。長期留学はヨーロッパやアメリカで経験したいと考えているので、まずは近くのアジアでの生活をしてみることで、海外滞在のイメージがわき、自分の幅は広がったと言えた。

③プログラム内容

平日は主に午前中が中国語の授業で会話だった。授業は結局先生の会話をすべて理解できるという段階にはいたることはできず、長期留学ではないと目に見えた成果はないと痛感した。午後は半日で市内の観光や、自由時間に使えることが多く、自分は旅行をしたり、宿題や小テストの勉強をしたりしていました。3日ほど午後に台湾文化について勉強する機会があったが、自分には不要だったと思った。また、参加者のバックグラウンドには非常に驚かされた。帰国子女や、二重国籍の人などがおり、自分自身の考え方との差が大きく、勉強になった。学内ではなかなか接することのできない他大学の人と交わったのはよかった。ただ、プログラム内にもう少し、台湾大学の学生と交流する機会があればよかった。ただ、これは自分の行動力が足りなかったともいうことができ、今後の自分の改善点として、考えなければならないことであり、3回生以降の大学生活ではより積極的に行動していこうと考え直す良い契機となった。

④進路への影響について

法学部に進学した者の、自分が将来何をやるべきなのかをまだまだ迷っている段階で、今回のプログラムに参加して、一定程度の影響はあったといえる。やはり普段の大学生活では、法曹や公務員を目指す人が多く、自分も漠然とそうした道を歩むのだろうかと考えていたが、多様な考え方に触れることで、そうした道をとらずに、自分がやりたいことを将来やりたいと強く考える一助となった。自分の小さいころからの夢として、「世界中の人々をより幸せにする」という核があるが、そこに自分が今までに経験してきたことを肉付けしていければと感じた。また、どこの国にいても、貧富の差はあり、自分一人で何か大きなことを成し遂げるためには、まだまだ力が足りないという考え方を、強めた。今回のプログラムに参加することで、そうした話をする友人に恵まれたということは自分にとって大きな財産となったと言える。